

# FUJIEDA ROTARY CLUB WEEKLY BULLETIN

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL 054-641-3321  
事務局：藤枝市青木1-9-16 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040



西湖湖畔より

[写真提供：山田 昭雄君]

2003-2004年度RIテーマ

◆Lend a Hand◆

◆手を貸そう◆

[ジヨナサンB.マジアベ]



会長：渡辺篤司 副会長：柳原寿男  
幹事：小宮弘一郎 副幹事：宮川邦光

## 第1564回

<ソング> われら日本のロータリアン  
<ソングリーダー> 後藤 功君

### 会長報告

渡辺 篤司君

昨年いくつかの忘年会に出ましたが、その時の挨拶で「来年は申年だから景気が良くなる」という事を良く耳にしました。

「申年は景気が良い」という根拠になっているのが「神武景気もその後のいざなぎ景気も申年だった」ということです。昭和30年～33年までの3年間の景気は「神武天皇誕生以来の好景気」との説から名づけられ、日本が高度成長時代を迎える事になってきた神武景気の昭和31年は申年だったのです。いざなぎ景気は神武景気を上回る好景気であることからこの名前がつき、この期間は昭和40年～45年(43年が申年)でテレビは白黒からカラーテレビ・車・クーラーの普及も急速に進み3C時代と言われました。50才以上の方なら思い出すでしょう。だが12年後の昭和55年は第二次石油危機のかけりが残っており、好景気とはほど遠かった。さらに12年度の平成4年は「申年は好景気」というジンクスが完全に崩れた年でバブル景気が終わりデフレ不況へ突入した年でした。だから申年は好景気という言葉は半分当って半分当たらない事になります。

「申年は好景気」のジンクスが是非とも当って欲しいと思う今日この頃です。

### 幹事報告

小宮 弘一郎君

- 2620地区新世代委員長・インターアクト委員長より2780地区との交流事業のお知らせが届いています。
- ロータリー財団寄付集計表が届いています。

- ロータリー100年史のご案内が届いています。
- 藤枝子どもと本をつなぐ会通信が届いています。

### 出席報告

宮川 邦光君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
29 / 42 69.05%	32 / 42 76.19%

(1)欠席者(事前連絡とメーキャップをどうぞ)

酒向君 杉山君 仲田廣君 松葉隆君  
村松宏君 鈴木廣君 橋本延君 浅川君  
板倉君 栗原君 鈴木瞬君 仲田晃君 望月志君

(2)メーキャップ者

片岡 利碩君(藤枝南) 青島 克郎君(島田)  
岩田 規君(榛南) 宮崎 啓之進君(榛南)

### ビジター

西澤 健治君(藤枝南) 殿村 元二郎君(藤枝南)

### スマイルBOX

宮川 邦光君

- 1月16日誕生日です。おそくなりました。  
村松 英昭君
- 誕生祝いありがとう。(会員・夫人)  
特にうれしくもありません。 青島 彰君
- 2月6日の母ふみの葬儀には御会葬いただき、なお霊前には御厚志をたまわり誠にありがとう御座居ました。  
小西 啓一君

スマイル累計額 889,500円

## 国際奉仕委員会卓話

国際奉仕委員長 桜井富郎君

皆様今日は。私は国際奉仕委員会の桜井です。過日、委員の方から「国際奉仕」のタイトルで本日の卓話をという事でしたので、今からお話をさせていただきます。話



の中でお聞き苦しい所が多々有ると思いますが、話が終るまでお聞きください。お願い致します。

日頃多くの人達がいかなる場所でも良く使われる意味あいまいな言葉があります。その言葉は私が今から話すタイトルの「国際奉仕」がそうです。共通のルールの下で、ともに助け合って生きていこうとする世界中の人々の集まりとでも言い換えたら正解に近いかも知れないのです。その「国際奉仕」の言葉が場所も人もわきまえる事もなくこれほど数多く使われることは過去になかったと思います。イラクへの自衛隊派遣問題で騒いでいる人々でも「国際奉仕」「国際奉仕」の連呼です。サマワに向かう陸上自衛隊への訓示でも「国際奉仕」の言葉が流行語のように使われております。世界中に人々が復興、復興と声高くしていると日本だけが何もしていないようであります。

それでは何かしなければと思うと追い立てられた気分になる。だが何もそんなに急ぐ事はない、我慢の時だと思えます。イラクをめぐる「国際奉仕」の顔は一つではありません。数多くの人々の受け止めようは各人共に温度差がありますが、それでいいのではありませんか。我慢も「国際奉仕」です。自衛隊の派遣を見つめる世界の目も一様ではないのです。アジアや欧州のメディアは自衛隊の派遣が日本の防衛政策をどこまで変えるのかということに関心を注ぎます。「国際奉仕」とは要するに米国とそれを支援する国々ではないのですか。しかしだからと「国際奉仕」と米国を同一視しては現実をごまかす事になります。いま日本が「国際奉仕」を言うなら現実を直視した「国際奉仕」

を立て直すために前向きな考え方をすべきではありませんか。もうそろそろ日本の体質を変えるよう、皆様と共に一生懸命努力していきたいのです。「国際奉仕」は入り口が浅く奥が深いのです。

最後に国際奉仕委員会が今一層発展する事を願って本日の卓話を終ります。意味不明の卓話でしたが終りとさせていただきます。本日は長い間ご静聴下さいまして、誠に有難うございました。今後供よろしくお願い致します。

(担当/平)